

技術者倫理研修会実施報告

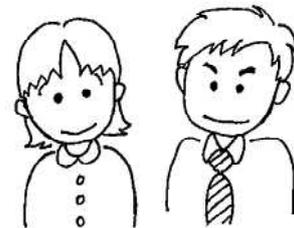
1. 開催日時等

2008年8月28日開催。詳細は会誌会告7月号(P.504)を参照

2. 研修会の狙いと目的(会告記事より)

*本研修会では、技術者倫理事例集(版)に収録した8事例と、それぞれに対するティーチングノート資料として使用し、事例の内容、狙い、活用方法を紹介しつつ討論も行い、参加者各位の技術者倫理活動を支援することを目的とします。

*技術者倫理事例集(版)の8事例とティーチングノートを中心にして説明と討議を行います。大学、企業などで技術者倫理の教育研修の企画、講義、とりまとめなどを担当する方、特に事例を用いた教育研修に関心をお持ちの方を想定した研修会とします。



3. 参加者の評価

3.1 総合評価

研修会の総合的評価を求めた項目で、回答者(42名)の74%が7段階評価の上位2段階(「非常によくあてはまる」と「あてはまる」と評価し、上位3段階(「多少あてはまる」まで)では93%となっている。

3.2 個別項目評価

個別項目に対する評価で、満足度上位3項目と、満足度下位3項目は次のとおりである。

上位3項目(上位2段階の評価が多いもの)

設問6 2つの事例(事例1,8)については、事例の意図、使い方などが理解できたか(62%)

設問4 講師の説明はわかりやすかったか(61%)

設問7 2つの事例(事例1,8)についての、グループ討論と全体討論は有益だったか(60%)

注:満足度上位項目の差は小さく、「設問5 講師の説明は貴方の今後の教育などの業務に役に立つものだった(59%)」「設問12 PowerPointの説明資料は貴方の今後の教育などの業務に役立つものだった(55%)」などが続く。

下位3項目(中間以下の評価が多いもの)

設問3 研修会のプログラム構成と時間配分は適切だったか(38%)

設問2 研修会の長さは適切だったか(29%)

設問9 ティーチングノートは分かりやすかったか(29%)

注:倫理研修会の今後の展開のために、教育WG全員の出席の下で、全ての事例を1日で

カバーするとの無理を敢えて通した。これらのご批判は、今回の研修会に限っていえば適切であると甘んじて受けざるを得ないと考える。

3.3 課題

(1) 教育 WG のスコープ

たとえば以下の各項について、教育 WG でどこまで取り組むべきかとの根本問題があるう。

(2) 研修会の形態と運営

- 名称：研修会だと出張旅費が出ない場合がある。研究会にすればよさそうだが、それは技術委員会の下で開催するもの(？)
- 参加者募集法：本テーマの場合「情報プル型」は効果が少なく、「情報プッシュ型」の情報提供方法をタイムリーに、多様に展開する必要がありそう。
- 学会内の関連委員会との連携
- 支部、大学、企業などへの展開

(3) 研修内容

- 研修の位置づけによって研修内容は変わる。技術者倫理事例そのものの研究・学習会か、技術者あるいは学生(技術者のプレ段階にある)を対象とする教育研修か、技術者倫理教育の展開を目指す組織(組織人)の支援か、「場」の提供か(e.g. 大学関係者と企業関係者が技術者倫理という課題を下に交流する場)。
- 倫理と法の問題(価値観とコンプライアンスの兼ね合い)
- 倫理「学」と技術者倫理(応用倫理)との兼ね合い。
- 個人としての技術者倫理と組織(大学、企業、学会など)活動との兼ね合い。すなわち組織としての技術倫理、企業倫理、SR(Social Responsibility)とか CSR (Corporate Social Responsibility)との兼ね合い。
- 「教育プログラム」のモデルの提案を目指すか。ちなみに事例集内の共通部分には次のような記事がある。何を、どこまで、どのように取り組むか。

本事例集の利用者には、技術者倫理を教育する、あるいは学習を促す立場にある方もおられよう。その立場から、技術者倫理教育を企画立案し、実行するためにどのようなことが必要であろうか。教育の場が教育機関であれ、企業内研修所であれ、研究室であれ、技術活動の現場であれ、少なくとも次の事項をレビューし、関連が深い次項を具体的に必要があるう。本事例集は g) に相当する。

- a) 技術者倫理教育の目的(学習目的・教育目的)
- b) 学習対象者
- c) 教育受講時の達成目標と評価(評価可能な目標の設定と、実際に達成されたか否かの評価、そのための方法論、評価シートなど)
- d) 学習の場(例えば大学教育、企業内研修、企業の現場)
- e) シラバス(教育計画)
- f) カリキュラムの中での位置づけ
- g) 教材
- h) 教育時期、教育期間、教育時間
- i) 講師(ファカルティ・ディベロプメントを含む)
- j) 教育場所、手段、方法
- k) 予算

項目「j) 教育場所，手段，方法」について補足する。本事例集は工夫次第でさまざまな場所で活用できると考えている。執筆者としては次のような活用場面を想定した。

- ・ 自学自習のための参考書
- ・ 教育機関の授業中でのケース学習教材（グループ討議，クラス討議等）
- ・ 教育機関の授業のレポート課題用参考書
- ・ 教育機関での講義の過程での事例集資料の断片的利用
- ・ 企業等の組織内倫理教育研修の教材
- ・ 企業等の組織内での職場の日常的な倫理観モラルアップ活動(小集団活動，訓示，朝礼等)の参考資料

(4) 事例集出版

(5) 事例の充実

以上